

# 教育格差背景調査報告書



生活困窮家庭の子どもたちの学習習慣と  
学力から教育格差の要因を探る

日本のすべての子どもたちが  
夢や希望を持てる社会の実現を目指して  
**教育格差の調査実施の背景**

特定非営利活動法人キッズドアは2007年より日本の子ども達における社会課題の解決に取り組んでいます。

現在、日本で暮らす子どものうち7人に1人、13.9%\*が、貧困に陥っており、特に、ひとり親世帯の貧困率は50.8%\*と厳しい状況です。こうした世帯で暮らす子ども達は、衣食住に加え、学習機会や様々な経験も不足しており、格差が拡大しています。

この事実は、近年国内の最重要課題のひとつと認識され、2015年に生活困窮者自立支援法が施行されました。「学習支援」が各地方自治体での任意事業に位置づけられ、全国で「無料学習会」等の運営が広がっています。

しかしこのような取り組みに対して定量的なエビデンスを用いた効果の検証があまりなされていないのが現状です。

キッズドアは2017年度事業において東京都と宮城県の62拠点で学習支援を行っており、継続的に持続可能な支援体制の構築を目指し活動しています。東京都内で

行う学習支援を《都市型》、宮城県で行う学習支援を《地方型》として捉え、それぞれの学習支援の手法や効果の検証が必要と考えています。

今まで「**生活困窮家庭の子どもたちの学力は一般的に低い傾向にある**」、「**家庭が経済的に苦しい状況のため子どもが大学進学をあきらめる**」など定性的に捉えられてきた子どもや保護者の状況について、このような調査による具体的な検証を行うことで、学習支援が子ども達や家庭に対してどのような効果があるのかを正確に判断することができます。また、現在行っている支援を数値の上から見直すことで、更に必要なものが見えてくると考えます。《都市型》と《地方型》の調査結果は日本全国で同様の活動をしている団体、企業、そして行政にとっても有益なものとなることでしょう。

この調査への取り組みが、今後も継続的に「学習支援」を行っていくことの一助になることを期待しています。

\*厚労省「平成27年国民生活基礎調査の概況」

**index**

教育格差調査実施の背景…………… 2  
 調査結果から見える3つの特徴 …… 3  
 キッズドアについて …………… 4  
 調査概要…………… 5  
 調査結果からわかったこと …………… 6  
 調査報告に寄せて…………… 10  
 調査関係者のご紹介…………… 11

**調査結果から見える3つの特徴**

**世帯年収が全国平均の半分程度**

キッズドアの学習会に通うご家庭の約半数は生活が苦しいと感じており、金銭的にかなり苦しい状況にあります。特にひとり親世帯の平均年収は245.7万円、**文部科学省が行っている類似調査との比較でも一般世帯年収で200万円未満が5.8%に対し、キッズドアの学習会に通う世帯では30.6%と大きな差があることがわかりました。**

中学生では金銭的な理由で習い事に通うことや、年1回の家族旅行に行くことのできない割合が東京都の類似調査と比べても高い状況にあります。また家庭において「紙」の新聞を70%以上が購読していないことは、生活費を切り詰めていることだけではなく、文化的資源の少なさにもつながっています。

**家庭学習時間が少ない要因は家庭環境と大きな関わりがある**

低学力の生徒の特徴として、自宅で親に勉強を見てもらう機会が少なかったり、自宅に宿題などをする場所がなかったりすることが挙げられます。また**家庭で保護者(多くの場合は母親)が子どもと関わる時間をなかなか持てないことが、子どもの進学に**

**対する意欲の低さや、周囲との関係構築を苦手としている傾向にもつながっているため、苦手意識の払拭や自己肯定感を高める意欲につなげることを重視する必要があることが明確になりました。**

**基礎学力の向上に有効なのは、「様々な体験活動の実施」「学習支援ボランティア」「じっくり過ごす時間」**

基礎学力の向上には、子ども自身があくでも「みずからやってみよう」と思える環境を支援していくことが重要です。学習会では多様な世代の学習支援ボランティアが褒めたり、認めてくれていると感じている子どもが約半数で学習会に対する満足度も非常に高いのが特徴です。**学習会に通うよう**

**になったことで、1日あたりの勉強時間が増え、勉強自体も好きになり、勉強に対するやる気・自信の向上につながっていることもわかりました。**学習会で企画している企業訪問やプログラミング教室、クラシックコンサートなどの体験活動は子ども達が将来を考えていく上でも役立っています。

# キッズドアについて

キッズドアは、貧困に苦しむ日本の子どもたちの社会へのドアを開けるべく、多くの大学生・社会人ボランティアと共に、子どもの学習支援に特化した活動を展開しています。

## 団体概要

特定非営利活動法人キッズドア (東京都中央区)

理事長 渡辺由美子

- 2007年1月 設立
- 2009年10月 NPO法人取得
- 2010年8月 高校受験対策講座タダゼミを開始
- 2011年4月 高校中退防止・大学受験対策講座ガチゼミを開始
- 2011年4月 東日本大震災、支援活動を開始
- 2011年6月 東北事務所設立
- 2013年 「ICT夢コンテスト2013」でCEC奨励賞受賞
- 2015年2月 ラーニングラボTOKYO開設
- 2015年4月 「子供の未来応援国民運動」に理事長渡辺が発起人として参加
- 2016年7月 「内閣府子供の貧困対策に関する有識者会議」構成員として参加
- 2017年5月 「厚生労働省 生活困窮者自立支援及び生活保護部会」委員に就任
- 2018年11月 社会貢献者表彰(公益財団法人社会貢献支援財団)に選出

## 2017年度実績

ひとり親や生活困窮家庭の子どものための無料学習支援を2010年より実施

### 2017年度キッズドア無料学習会・居場所運営実績

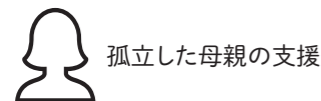
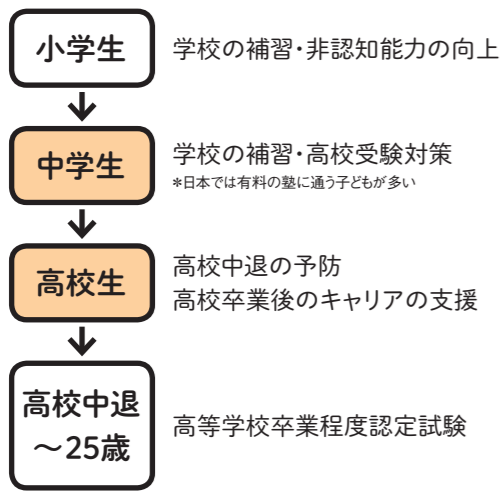
- ・事業数/33事業
- ・学習会拠点数/62か所
- ・登録生徒数/2064名
- ・登録ボランティア数/1085名

高校進学 221名 (進学率100%)  
大学受験 17名



## 対象者

小1～25歳までの低所得家庭の子ども・若者に学習支援を実施。中心は中学生、高校生



## 学習会のタイプ

塾型 (学習支援) 軽度な貧困家庭に効果的	居場所型 (学習支援+生活支援) 重度な貧困家庭に効果的 (虐待、DV、保護者が病気など)
週1回2時間など 学習指導が中心 ただし、寄り添い型個別指導、子どもや保護者の相談や非認知能力(コミュニケーション、努力など)向上	週3日～週6日まで 15:00～20:00 (21:00) 放課後毎日通える ・安全な居場所の提供 ・食事の提供 ・学習支援 毎日18:00～20:00は学習タイム
ひとり親家庭で、塾に行かせられない 高校受験が心配 学習習慣をつけたい 多様な大人(大学生や社会人ボランティア)との出会い	家庭の機能が十分でない 愛情も不足がち =擬似大家族のような共同体 いつでも来られる、頼りになる =大変な家ほど毎日来る

+体験活動、職場体験、企業ボランティアとの交流など

# 調査概要

## 調査の目的

キッズドアが実施している「低所得家庭の子どもの無料学習会」に通うご家庭を対象に、所得や家庭環境と子どもの学習習慣や学力の調査を行い、教育格差の原因と、それを解決する施策を立案する。

また、本分野の第一人者であるお茶の水女子大学 耳塚寛明教授の知見を加えることで、新しい発見や精度の向上につなげる。



- ① 子どもの貧困対策としての学習支援の有効性の検証
- ② 教育格差が生じる要因分析
- ③ より良い学習支援へ

## 学習会の特徴

通所の資格要件

- ・ひとり親家庭
- ・就学援助受給者世帯
- ・児童扶養手当受給者世帯
- ・上記と同様な所得の世帯等

A	足立区 (北部、東部、西部)
B	世田谷区 中野区(みらい塾) 目黒区 English Drive
C	タダゼミ (あだち、杉並、中央区)
D	仙台 (中1・2、中3)

**A: 居場所型学習会**  
主に週5日開所しており、リビングスペースと学習スペースの両方を設ける。家庭以外の第2の居場所として機能。

**B・C: 週型学習会**  
主に週1日または2日開所し、子どもたちの学習の下支えを目的に学習支援を行う。1回の学習時間は2時間程度。

**D: 地方型学習会**  
主に週1日または2日の学習支援を行う。学習曜日以外は自習室利用が可能で週5日開放。自習室でもボランティアによる学習サポートを受けることができる。

\*タダゼミ(中3都立高校受験講座)に関しては後期9月以降は午前・午後通して1日学習支援を行う。

## 調査項目

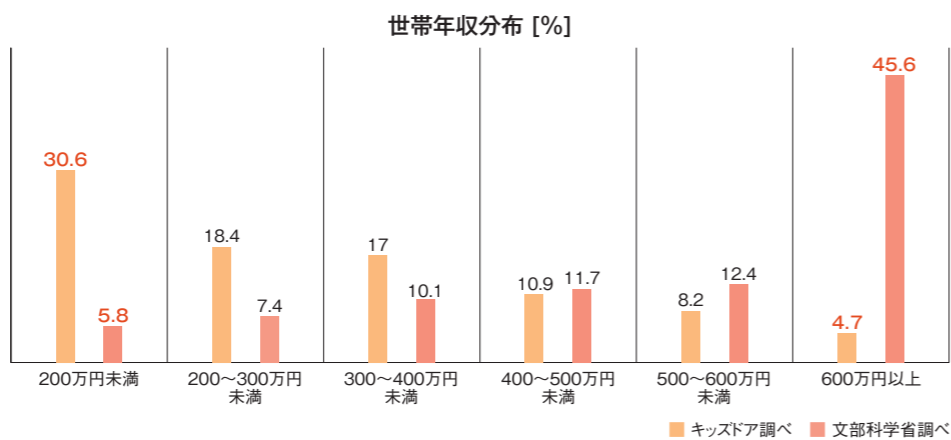
調査種類		主な調査項目	
第1回調査	中学生調査	●自身のこと ●自身の考え ●自身の経験 ●学校外での体験 ●家庭内での体験	●ふだんの生活 ●学校・勉強 ●将来のこと
	保護者調査	●就労状況 ●世帯の生活面 ●子どもの学習状況	●学校外での体験・家庭内での体験 ●自身の考え
	学力テスト	国語 ●漢字の書き取り ●言葉の意味 数学 ●四則計算 ●分数・累乗 文章構成 ●話をつくる	●四文字熟語 ●接続詞 ●文字式
第2回調査	中学生調査	●自身のこと ●自身の考え ●学校・勉強	●将来のこと ●学校外での体験・家庭内での体験
	学力テスト	国語 ●漢字の書き取り ●言葉の意味 数学 ●四則計算 ●分数・累乗	●四文字熟語 ●接続詞 ●文字式

# 「環境」

## 学習支援を受ける家庭の厳しい生活実態

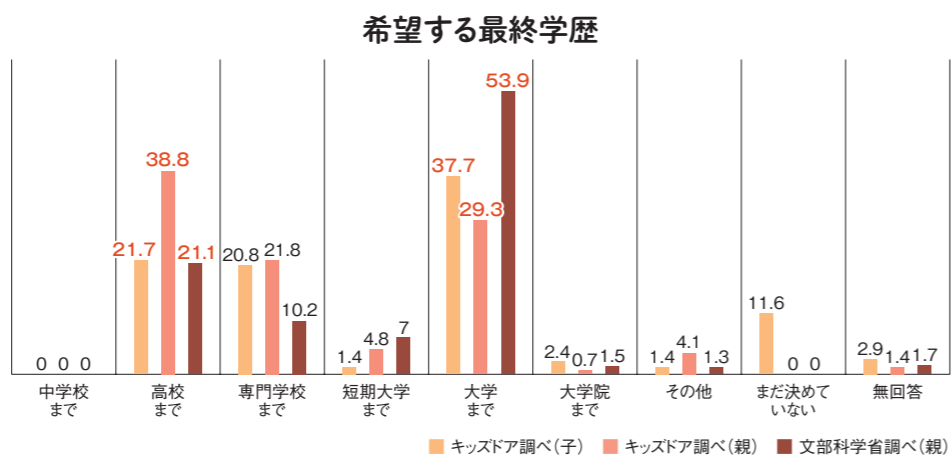
平均値 キッズドア調べ／304.9万円 文部科学省調べ／633.3万円

世帯年収については、「200万円未満」が30.6%と最も高く、次いで「200～300万円未満」が18.4%となっている。なお、全体の平均年収は304.9万円となっている。



## 子どもと保護者の将来像のギャップ

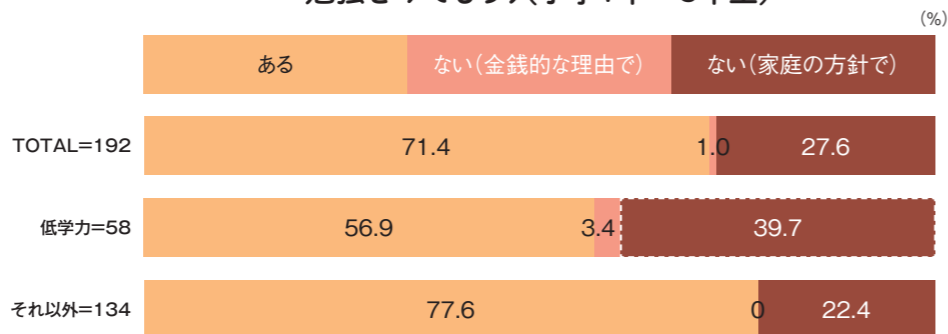
保護者の希望する最終学歴は、「高校卒業」が38.8%と高く、次いで「4年制大学」が29.3%となっている。また、保護者が子どもに希望する最終学歴を類似調査と比較すると「4年制大学卒業」はキッズドアのほうが文科省よりも24.6ポイント低く、「高校卒業」は17.7ポイント高くなっている。



## 体験活動や、保護者の学習への関わり、家庭学習時間などが低学力に繋がる

勉強をみてもらう(小学1年～3年生)

勉強をみてもらう体験が「ない」生徒は、低学力の生徒の「家庭の方針で」と「金銭的な理由で」を合わせると43.1%、それ以外の生徒は22.4%となっている。



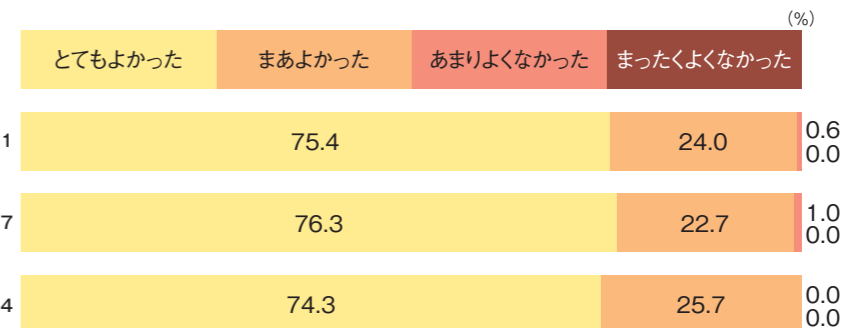
# 「学習支援の効果」

## 学習会での満足度

【生徒】あなたはキッズドアの学習会に来て、よかったですか。

### 学習会への参加

学習会参加満足度については、「とてもよかった」が75.4%と最も高く、次いで「まあよかった」が24.0%となっている。

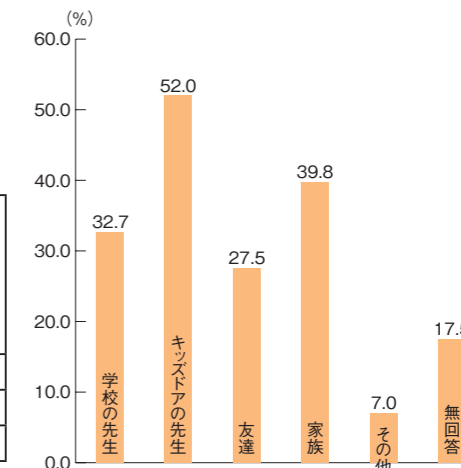


### 褒められた・認められた

通塾開始後に褒めたり認めてくれた人については、「キッズドアの先生」が52.0%と最も高く、次いで「家族」が39.8%、「学校の先生」が32.7%となっている。学習会の群別にみると、B・C・D群では、「家族」が48.6%と高くなっている。

	学校の先生	キッズドアの先生	友達	家族	その他	無回答
TOTAL	32.7	52.0	27.5	39.8	7.0	17.5
A群	29.9	50.5	27.8	33.0	7.2	20.6
B・C・D群	36.5	54.1	27.0	48.6	6.8	13.5

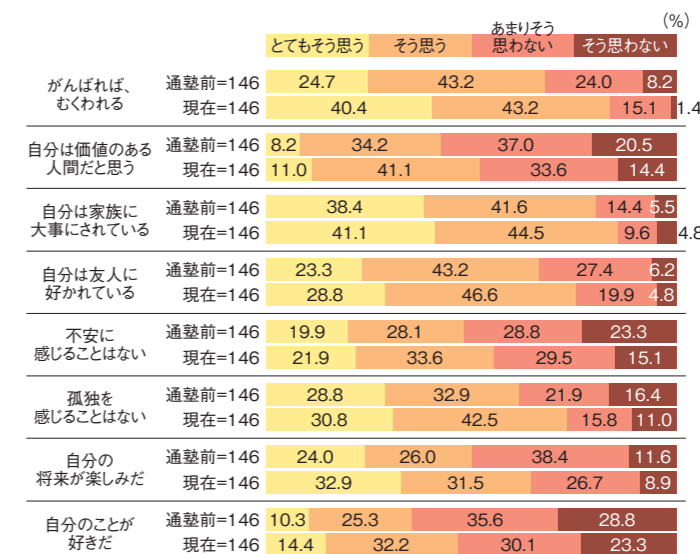
【生徒】キッズドアの学習会に通うようになってから、だれかに褒められたり、認められたりしたことはありますか。



### 意識・考え方の変化

【生徒】右のそれぞれの意見について、あなたはどう思いますか。それぞれキッズドアの学習会に通う前と現在について、あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。

「とてもそう思う」の割合を通塾前と比較すると、「がんばれば、むくわれる」が15.7ポイント、「自分の将来が楽しみだ」が8.9ポイント高くなっている。



# 「学習支援の効果」

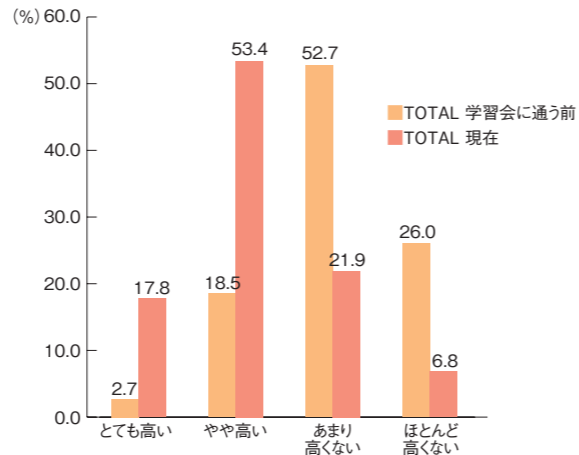
## 気持ちの変化

### 勉強へのやる気

現在の勉強に対するやる気については、「やや高い」が53.4%と最も高く、次いで「とても高い」が21.9%、「とても高い」「やや高い」の割合が高くなっている。

TOTAL	やる気					
	とても高い	やや高い	あまり高くない	ほとんど高くない		
学習会に通う前	146	2.7	18.5	52.7	26.0	
現在	146	17.8	53.4	21.9	6.8	
A群	学習会に通う前	85	2.4	18.8	48.2	30.6
	現在	85	11.8	51.8	27.1	9.4
B・C・D群	学習会に通う前	61	3.3	18.0	59.0	19.7
	現在	61	26.2	55.7	14.8	3.3

【生徒】キッズドアの学習会に通う前と現在で、あなたの勉強に対するやる気はどうか。

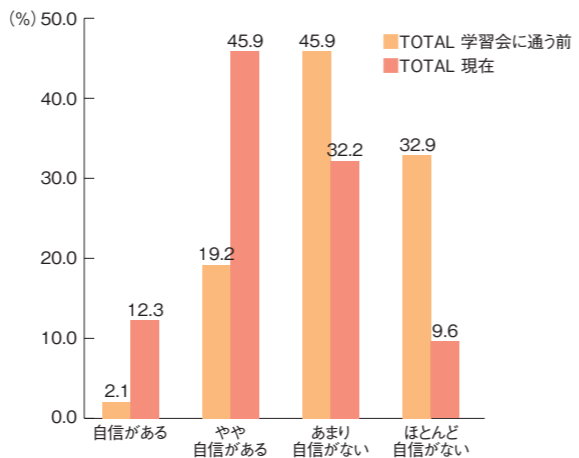


### 勉強に対する自信

現在の勉強に対する自信については、「やや自信がある」が45.9%と最も高く、次いで「あまり自信がない」が32.2%となっている。

TOTAL	自信					
	自信がある	やや自信がある	あまり自信がない	ほとんど自信がない		
学習会に通う前	146	2.1	19.2	45.9	32.9	
現在	146	12.3	45.9	32.2	9.6	
A群	学習会に通う前	85	1.2	15.3	44.7	38.8
	現在	85	4.7	43.5	38.8	12.9
B・C・D群	学習会に通う前	61	3.3	24.6	47.5	24.6
	現在	61	23.0	49.2	23.0	4.9

【生徒】キッズドアの学習会に通う前と現在で、勉強に対する自信(「自分にもできる!」という気持ち)はありますか。

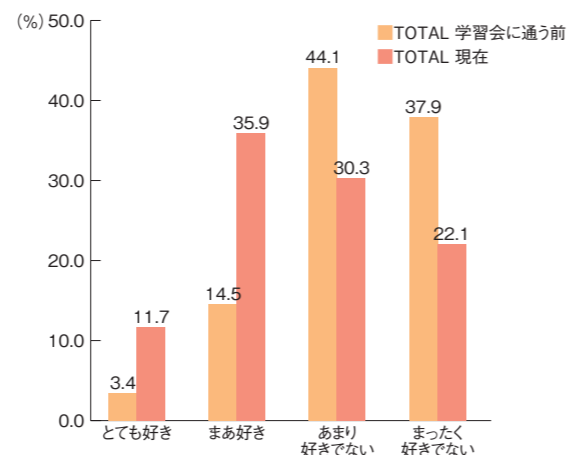


### 勉強の好き嫌い

現在勉強がどれくらい好きかについては、「まあ好き」が35.9%と最も高く、次いで「あまり好きでない」が30.3%となっている。

TOTAL	好き嫌い					
	とても好き	まあ好き	あまり好きでない	まったく好きでない		
学習会に通う前	145	3.4	14.5	44.1	37.9	
現在	145	11.7	35.9	30.3	22.1	
A群	学習会に通う前	84	3.6	11.9	39.3	45.2
	現在	84	6.0	32.1	34.5	27.4
B・C・D群	学習会に通う前	61	3.3	18.0	50.8	27.9
	現在	61	19.7	41.0	24.6	14.8

【生徒】キッズドアの学習会に通う前と現在で、勉強における目標を立てていますか。



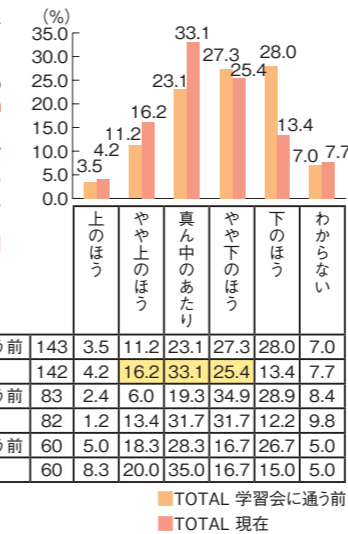
## 学力面の変化

### 成績

現在の学校のクラスの中での成績(全体)については、「真ん中のあたり」が33.1%と最も高く、次いで「やや下のほう」が25.4%となっている。

TOTAL	成績							
	学習会に通う前	現在	上のほう	やや上のほう	真ん中のあたり	やや下のほう	下のほう	わからない
学習会に通う前	143	3.5	11.2	23.1	27.3	28.0	7.0	
現在	142	4.2	16.2	33.1	25.4	13.4	7.7	
A群	学習会に通う前	83	2.4	6.0	19.3	34.9	28.9	8.4
	現在	82	1.2	13.4	31.7	31.7	12.2	9.8
B・C・D群	学習会に通う前	60	5.0	18.3	28.3	16.7	26.7	5.0
	現在	60	8.3	20.0	35.0	16.7	15.0	5.0

【生徒】キッズドアの学習会に通う前と現在で、あなたの学校の成績はクラスの中でどれくらいだと思いますか。(全体について)

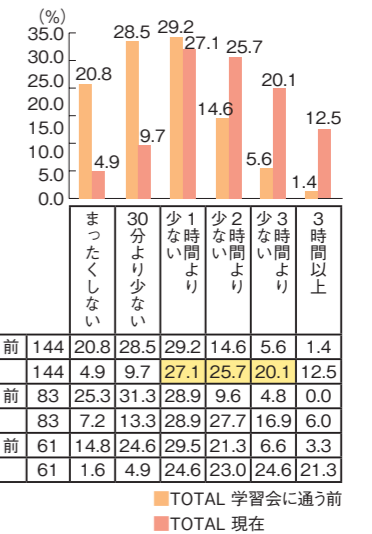


### 勉強時間

現在の1日あたりの勉強時間については、「1時間より少ない」が27.1%と最も高く、次いで「2時間より少ない」が25.7%となっている。

TOTAL	勉強時間							
	学習会に通う前	現在	まったくしない	30分より少ない	1時間より少ない	2時間より少ない	3時間以上	
学習会に通う前	144	20.8	28.5	29.2	14.6	5.6	1.4	
現在	144	4.9	9.7	27.1	25.7	20.1	12.5	
A群	学習会に通う前	83	25.3	31.3	28.9	9.6	4.8	0.0
	現在	83	7.2	13.3	28.9	27.7	16.9	6.0
B・C・D群	学習会に通う前	61	14.8	24.6	29.5	21.3	6.6	3.3
	現在	61	1.6	4.9	24.6	23.0	24.6	21.3

【生徒】キッズドアの学習会に通う前と現在で、月曜日～金曜日、1日あたりの勉強時間はどれくらいですか。



## 将来について

### 進学希望

進学の希望については、「大学まで」が35.7%と最も高く、次いで「高校まで」が21.6%、「専門学校まで」が19.9%となっている。

【生徒】あなたは、将来どの学校まで進みたいと思いますか。

TOTAL	進学希望									
	中学校まで	高校まで	専門学校まで	短期大学まで	大学まで	大学院まで	その他	まだ決めていない	無回答	
134	0.6	21.6	19.9	2.9	35.7		4.1	0.6	13.5	1.2
A群	134	1.0	28.9	21.6	3.1	26.8	4.1	0.0	13.4	1.0
B・C・D群	134	0.0	12.2	17.6	2.7	47.3	4.1	1.4	13.5	1.4

### 進学理由

進学したい理由については、「進学した方が就職するのに有利だから」が46.2%と最も高く、次いで「学生生活を楽しみたいから」が36.3%となっている。

【生徒】前問で答えたところまで進学したい理由を教えてください。

TOTAL	進学理由													
	資格が必要だから	希望する職業に就く	深く学ばないから	幅広い教養を身に付けたいから	進学した方が就職に有利だから	考える時間がほしいから	将来の生き方や職業について、じっくり考える時間が欲しいから	学生生活を楽しくしたいから	高校を出てすぐ就職するのが嫌だから	親など保護者から勧められるから	親など保護者から勧められたら高	ただなんとなく	進学するから	その他
171	31.6	34.5	28.7	46.2	23.4	36.3	12.3	13.5	2.9	12.3	7.0	7.0	9.9	
A群	97	26.8	25.8	22.7	49.5	26.8	35.1	15.5	16.5	5.2	13.4	9.3	10.3	9.3
B・C・D群	74	37.8	45.9	36.5	41.9	18.9	37.8	8.1	9.5	0.0	10.8	4.1	2.7	10.8

## 調査から見える実態と効果

### 調査報告に寄せて

耳塚寛明 お茶の水女子大学教授

#### 他に例のない調査

NPO法人キッズドア（渡辺由美子理事長）が、「教育格差の要因分析と学習支援方法に関する調査」を実施して結果を公表した。筆者は共同研究者として調査研究に参加した。キッズドアは、生活困窮家庭等の子どもたちを対象に、東京都内と宮城県内でタダゼミ（学習会）等の学習支援事業を行っている団体である。質問紙調査の対象は、キッズドアの学習会に通っている中学生およびその保護者。2017年12月と18年3月（生徒のみ）の2回にわたって調査された。質問紙の回収数は、第1回は中学生207、保護者147、第2回は中学生171。調査の規模が小さいように思われるかもしれないが、調査対象の特殊性に鑑みれば、この規模で調査が可能な団体は他にないであろう。生活困窮世帯の子どもたちの学習支援活動を行っているNPO自身が、教育格差の背景要因を探り、またより効果的な支援方法を明らかにするための調査研究を行うのは、初めてのことでないか。少なくとも私は見たことがない。

#### 生活困窮世帯の家庭環境

今回の調査で明らかになったことが主に二つある。第一に、生活困窮世帯の家庭環境である。学習会に通う子どもたちの家庭（144世帯）のうち、じつに91が一人親世帯である。父親の同居率が極端に低いことから考えて、半数以上が母子世帯であろう。世帯年収は著しく低所得層に偏る。年収300万円未満の世帯が今回の調査では49%を占めた。文科省の全国学力・学習状況調査（平成29年度保護者調査）では15%に過ぎない。単に年収が低だけでなく、それが実際の生活場面で支障をもたらしている。東京都が2016年に実施した「子供の生活実態調査」によれば、「過去1年にお金が足りなくて家族が必要とする食料が買えないことがあった」家庭は11%だが、キッズドア調査では35%に及ぶ。経済的困窮は、食生活にも影響を与えている。学習会に通う子どもたちは、朝食を毎朝食べる者が少なく、「孤食」が多く、野菜を食べることが少ないという特徴がある。カップ麺、コンビニのおにぎり、炭酸飲料を摂取する者も相対的に多い。経済的な豊かさが剥奪されているだけではない。学習会に通う子どもたちの保護者は、相対的に高学歴者が少ないが、家にある本の冊数が少ない等、文化的な剥奪も見られる。新聞を読む者が少なく、家庭学習時間も乏しい。通塾や通信教育を経験した者も少ない。保護者の子どもに対する学歴期待も相対的に低い。学習会に通う子どもたちは、生活体験の幅が狭い点にも特徴がある。たとえば、先にあげた東京都調査では、「1年に1回くらい家族旅行に行く」世帯は76%に達するが、キッズドア調査では40%に過ぎない。スポーツ観戦や劇場に行った経験も同様である。就学前や小学校時代から、文化的体験（博物館や美術館、劇場）、野外・自然体験、他者とのコミュニケーションが乏しかったものと推測できる。経済的な困窮だけではなく、文化的剥奪の蓄積にも目を向けた支援が必要だろう。

#### 学習会参加の成果は大きい

第二に、今回の調査を通じて、タダゼミ（学習会）などの学習支援事業が、非常に大きな成果を生んでいることが明らかになった。学習会に参加した子どもたちの満足度はすこぶる高く、学校の授業がわかるようになった、家庭学習時間が長くなったという回答が多い。たとえば図は、学習会に参加する前と現在とで、家庭学習時間の長さを回答させた結果である。（P9上段右図）現在の平日の学習時間は学習会に通う前に比べて、「まったくしない」（21%→5%）と「30分より少ない」（29%→10%）が減少し、「2時間より多い」（22%→58%）が増加している。学習時間の増加が顕著である。それだけではない。学習への構えや自己概念も肯定的な方向へと変化している。学習会に通うことによって、勉強へのやる気や自信が高まり、「自分の将来が楽しみだ」「がんばれば報われる」という回答も増えているのである。困窮する家庭に育った子どもたちをどう支援していくのか。そこでは社会福祉や税制、雇用に関わる政策等を通じた、基盤的施策がまずは重要である。子どもの学習支援についても、学校教育がやはり基盤的役割を果たすべきであろう。だが貧困の連鎖を断ち切る上で、現時点ではNPO等による学習支援に依存せざるを得ない状況は否定できない。むしろ、必要な支援を素早く届けることのできる仕組みを柔軟に構築できるので、行政や学校以上に効果的ともいえる。今回の調査によって、困窮家庭の子どもたちにどんな支援が必要とされているのかが見えてきた意義は大きい。そして、学習会参加の成果が予想以上に大きかった事実から、学習支援事業を拡大していく方向性が誤りではないことが裏付けられた。NPO等への支援に向けて、今度は行政が腰を上げる番である。

月刊高校教育 2018 12月号 「時の眼」176

## 調査関係者のご紹介

#### 特定非営利活動法人キッズドア

（HP：<http://www.kidsdoor.net/> 本社：東京都中央区新川2-1-11 八重洲第1パークビル7階）  
先駆けて子どもの貧困に取り組む。東京都、宮城県で合わせて33事業62拠点の無料学習会の運営。主に家庭の経済的な理由により塾に通えない小学、中学・高校生向けの学習支援、中退予防および中退者のための居場所の提供と学習支援を実施。また、宮城県南三陸町で地方創生事業を展開している。

#### 渡辺由美子

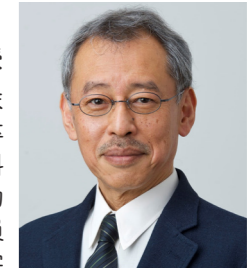
特定非営利活動法人キッズドア理事長



千葉大学出身。大手百貨店、出版社を経て、フリーランスのマーケティングプランナーとして活躍。配偶者の転勤に伴い一年間イギリスに移住し、「社会全体で子どもを育てる」ことを体験する。日本の全ての子どもが夢と希望を持てる社会を目指し、活動を広げている。2016年第4回日経ソーシャルイニシアチブ大賞国内部門ファイナリストに選ばれる。2018年5月、初めての著書『子どもの貧困～未来へつなぐためにできること～』（水曜社）を上梓。内閣府子供の貧困対策に関する有識者会議 構成員、厚生労働省生活困窮者自立支援及び生活保護部会委員、専修大学 非常勤講師

#### 耳塚寛明

お茶の水女子大学  
基幹研究院人間科学系教授



1953年長野県松本市生まれ。東京大学教育学部卒業、同大学院教育学研究科単位取得退学。東京大学助手、国立教育研究所研究員を経て、お茶の水女子大学へ。現在、同大学基幹研究院人間科学系教授。この間、文教育学部長、理事・副学長を務める。日本教育社会学会元会長、長野県教育委員、文部科学省全国的な学力調査に関する専門家会議座長。専門は、教育社会学（学力の社会学、教育政策、学校組織など）。『教育格差の社会学』（有斐閣、2014）『学力格差に挑む』（金子書房、2013）『学力とトランジションの危機―閉ざされた大人への道』（金子書房、2007）等。（いずれも編著）

#### 株式会社インテージリサーチ

（HP：<https://www.intage-research.co.jp/> 本社：東京都東久留米市本町1-4-1）

インテージグループの一員として、社会・公共領域をテーマとした調査研究、公的統計調査の受託や民間の市場調査のデータ収集を行う。具体的には、マーケティングの概念・方法論を応用し、人びとの暮らしや経営と政策をつないでいる。ライフサイクルやヘルスケア、経済行動など、幅広い分野において、意識や行動の実態を把握し、要因を分析。各種経済統計を通じた経営の実情や課題の整理を実施し、生活者支援・産業振興などの政策推進に寄与している。加えて、社会の意識や行動の変容を図るなど、環境省や民間企業の環境施策への支援も行っている。

## 助成団体のご紹介

#### 公益財団法人三菱財団

この調査は公益財団法人三菱財団の助成を受けて実施しました。

#### 本報告書に関するお問い合わせ

特定非営利活動法人キッズドア（事務局 松見）  
TEL：03-5244-9990（平日10:00～18:00）  
Fax:03-5244-9991 E-mail: info@kidsdoor.net

## 特定非営利活動法人キッズドア

[東京]

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-11 八重洲第1パークビル7階  
TEL:03-5244-9990 FAX:03-5244-9991

[東北]

〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡3-2-5  
サンライズ仙台2階  
TEL:022-354-1157 FAX:022-355-2071

ホームページ:<http://www.kidsdoor.net/>  
Email:[info@kidsdoor.net](mailto:info@kidsdoor.net)

### 《 寄付 》

---

#### ●銀行振込

三井住友銀行 小岩支店 普通 7051849  
特定非営利活動法人キッズドア

#### ●郵便振替

口座記号番号:00120-4-743715  
特定非営利活動法人キッズドア

2019年2月発行